

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立羽生高等学校)

目指す学校像	不登校等、多様な問題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校。
--------	---

重点目標	<p>1 生徒として望ましい授業態度の育成に努めるとともに、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の向上と問題解決力の充実を推進する。</p> <p>2 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>3 生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(3月10日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>○基礎学力に差があり、目的意識や学校に対する期待も多様化している。 → 多様化への対応 → 基礎学力の向上</p> <p>○日々の授業の大切さを十分認識できていない。 → 授業態度の改善 → 受講指導の充実 → 学習意欲の向上 → 進路希望の実現</p>	授業改善を始めとする学力向上に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業の特性を生かした授業計画を立てる。 個々の生徒情報を共有する。 指導方法や教材を工夫、改善する。 指導方法等に関する職員研修会を実施する。 授業態度指導を徹底する。 進路実現に向けた受講指導の質を高める。 進路意識を高める取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業アンケートの「授業の分かりやすさ」「教え方の工夫」の評価 教員による学校自己評価に関するアンケートの「授業改善を始めとする学力向上に関する取組」の評価 保護者アンケート集計結果 定期考査の大幅な遅刻者、早退者数 履修・修得率 進路希望未定率 	<ul style="list-style-type: none"> 左記2項目の肯定的評価は順に 58% (-2P) 65% (+4P) 89% (-7P) の教員が分かる授業を推進できたと回答 定期考査の大幅な遅刻者、早退者を調査 前期中間13名 期末24名 後期中間14名 期末9名 割合 16.6% (-1Pと改善) 履修成立率 83.0% (+3.6P) 単位修得率 79.0% (+2.1P) H21 28.0% (-4.1P と改善) 	B
2	<p>○本校の特色や教育活動の広報に一層努める必要がある。 → 広報活動の改善と精選 → 学校自己評価システムの活用</p> <p>○生涯学習機関としての役割を果たしている。 → 特別講座・学校公開講座の充実</p>	開かれた学校づくりの取組	<ul style="list-style-type: none"> 本校HPを新システムへ移行する。 市内の公共施設等へ学校情報を提供する。 学校説明会、中学校等訪問を効果的に実施する。 校内外における生徒の活動、活躍機会を支援する。 講座内容・テーマ等を工夫、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> HPのアクセス数 地域アンケート集計結果 説明会参加者アンケート集計結果 勾玉祭来校者数と分析 教員による学校自己評価に関するアンケートの「開かれた学校づくりの取組」の評価 特別講座受講者アンケート集計結果 	<ul style="list-style-type: none"> 月平均1,300件 (-100件) 12月以降は前年度+200件 本校の特色を知っている方の割合 平均56.0% (+2.9P) 「説明会のわかりやすさ」の肯定的評価 99.9% (-0.1P) H21 286名(天気の影響有り) (H20 320名 H19 384名) 各項目の肯定的な評価は、平均 83.4% (-4.9P) 「教育活動に関する項目」で肯定的な評価 98%(±0P) 	A
3	<p>○対人関係形成などで、課題を抱えている生徒がいる。 → 校内環境の整備 → 教育相談の充実</p> <p>○社会的なマナーや日々の生活習慣の改善が必要な生徒がいる。 → 特別活動の活性化 → 生徒指導の充実</p>	生徒指導・教育相談の取組	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法等に関する職員研修会を実施する。 校内環境の整備と施設の美化に努める。 教育相談関係諸機関との連携を図る。 スクールカウンセラーと連携し、教育効果を高める。 生徒のマナー意識調査を実施する。 校内外の巡回指導を強化する。 生徒指導関係諸機関との連携を図る。 特別活動を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個別相談件数 保護者アンケート集計結果 中退者数と分析 教員による学校自己評価に関するアンケートの「生徒指導・教育相談の取組」の評価 地域アンケートの「本校生徒の礼儀やマナー」の評価 問題行動の発生件数 保護者アンケート集計結果 活動状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> 増加傾向 「生徒理解・指導」の項目の肯定的な評価 82% (+4P) 中退者数 38名(2月末時点) 割合 10.5% (-0.1Pと改善) 各項目の肯定的な評価は、平均 65.9% (+2.5P) 肯定的な評価 47% (+8.5P) H21 23件(48名) H20 26件(37名) 「生徒のマナー」の項目の肯定的な評価 65% (+2P) 全国大会出場部活動4部 	B

学校関係者評価	
実施日	平成22年3月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・授業評価については、生徒・保護者アンケートともに肯定的評価が多く、授業改善に取り組む姿勢が窺える。</p> <p>・生徒にとって学校が自分の居場所と感じられることが基本で、その上に授業の成立がある。そのためにはまず教師と生徒の信頼関係の確立が大事。</p> <p>・自習授業を減らしてほしい。</p> <p>・生徒それぞれの学力状況に応じた学習指導をのぞむ。</p> <p>・できる生徒に発展問題を課し、理解不十分な生徒にはついて丁寧に教えてくれた少人数授業は良かった。</p> <p>・「分かる授業」「できる授業」「楽しい授業」を目指したい。生徒が達成感を得られる授業作りを期待する。</p> <p>・HPや学校説明会などによる学校の広報活動については保護者・特別講座受講生・近隣住民ともアンケートで高く評価している回答が多い。</p> <p>・HPに文化祭の日時や部活紹介、学校だよりのバックナンバーなど、より学校の日常に密着した情報も載せるとよい。</p> <p>・生徒を市の催しなど校外活動にもっと積極的に参加させ、多感な時期のエネルギーを活用させて欲しい。</p> <p>・市民は特別講座の情報などを市の広報から得ており、市との連携をさらに深めることの重要性をアンケートは指摘している。</p> <p>・同窓会として羽生高校の教育や羽生高校のよさを紹介することに取り組みたい。</p> <p>・PTAも不登校の子を抱える保護者に羽生高校の取組を紹介していきたい。</p> <p>・保護者アンケートで「羽生高校に入学させてよかった」という回答が非常に多かった。再チャレンジを支える本校のシステムと教育相談の充実度が評価されていることが窺える。</p> <p>・生徒に寄り添い、根気よく生徒の話聞き、不登校生や悩みを抱える生徒を理解することが大切である。</p> <p>・家庭教育が重要。多感な時期の生徒達の変化にまわりの大人が気づいてやる必要がある。</p> <p>・部活動であれ、音楽活動であれ、生徒が発表できる場を作り、外に向けた学校行事をふやし、「学校は楽しい」と思える生徒がふえるとうれしい。みんなで楽しさを見いだせる学校になってほしい。</p>	